

大学改革の進展と 公立大学の未来

大学設置基準の大綱化以降、大学改革は市場化・PDCAサイクルなど制度構築の段階から、大学の多様化・教育の実質化等の機能充実の段階を経て、国立大学改革、高大接続改革、評価制度の見直しなど、新たなステージへと進んでいます。また、地方創生政策への対応、私立大学の公立大学法人への移行など、公立大学設置団体自体の政策も高度化・複雑化してきています。

本セミナーでは、このような大学改革の進展を踏まえながら、公立大学の現状と特有の課題に触れ、その将来像と教職員自らが果たすべき役割等について考える機会とします。

平成28年 **6月29日** (水)

第1部 講演 (教職員対象)

「大学改革の進展と公立大学の未来」

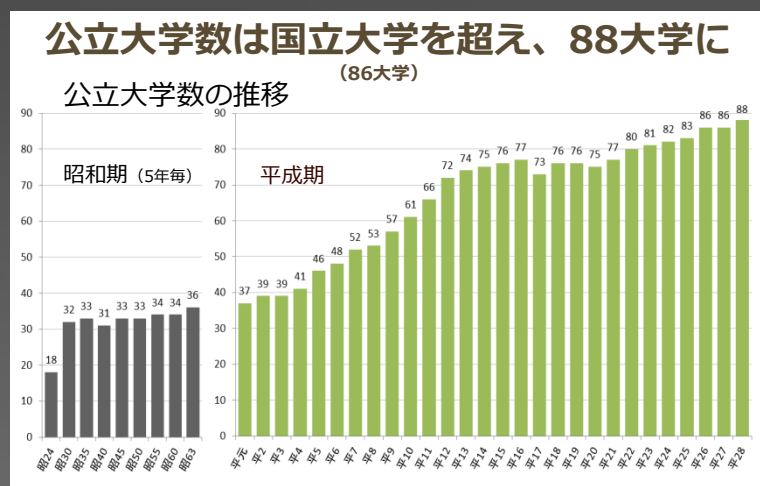
14:40～16:00 共通講義棟101

第2部 フォローアップ・ディスカッション (主に職員対象)

「公立大学の職員の課題～これからの学びについて～」

16:10～17:10 共通講義棟207

講師 中田 晃 氏 (一般社団法人公立大学協会 事務局長)



公立大学協会資料から作成

複雑な公立大学の立ち位置

国立大学のミッションの再定義～3類型化

重点支援①：
地域のニーズに応える人材育成・研究を推進 (55大学)

重点支援②：
分野毎の優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進 (15大学)

重点支援③：
世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進 (16大学)

国立大学の新たな動きを踏まえ、公立大学では…

- 設置団体はどう動く。国立の「地域貢献重視」を歓迎？
- 公立大学の存在意義はどうなる？
- 「文系廃止」公立大学への影響は？
- 将来の国立大学と公立大学の関係はどうなる？
- ……

公立大学協会資料から作成